

食品安全委員会委員と消費者団体との情報交換会（第11回）

1. 日 時 : 平成28年3月10日(木) 13:30~15:30
2. 場 所 : 食品安全委員会 委員長室
3. 出席者 : (敬称略)
(消費者団体)
有田芳子(主婦連合会 会長)、小倉寿子(全国消費者団体連絡会 政策スタッフ)、笹川博子(日本生活協同組合連合会 組織推進本部長)、長田三紀(全国地域婦人団体連絡協議会 事務局長)
(食品安全委員会委員)
佐藤委員長、熊谷委員
(食品安全委員会事務局)
姫田事務局長、東條事務局次長、小森総務課長、関野評価第一課長、鋤柄評価第二課長、植木情報・勧告広報課長、木下リスクコミュニケーション官、池田評価情報分析官 他
4. 議 事
(1) 食品安全委員会の活動状況
(2) 話題提供 「いわゆる『健康食品』について」
食品安全委員会 佐藤 洋 委員長
(3) 質疑応答、意見交換会
5. 配布資料一覧
資料1-1 食品健康影響評価の審議状況
資料1-2 主な食品健康影響評価について
資料2 「健康食品」について～安全な選択をするために～
資料3 いわゆる「健康食品」について(メッセージ、報告書等)
6. 議事内容
【意見交換での当方からの主な説明】
 - ・ 今回の報告書にとりまとめた内容は、基本的に全てバックデータがある。
 - ・ サプリメントの摂取などに関して相談すべき専門家とは、医師、薬剤師、管理栄養士、アドバイザースタッフなどのことである。なお、アドバイザースタッフとは、厚生労働省が取りまとめて公表した「保健機能食品等に係るアドバイザースタッフの養成に関する基本的考え方について」の内容に基づいて民間団体が養成している、「健康食品の持つ成分の機能、その必要性、使用目的、活用方法等について理解し、正しく情報を提供できる身近な助言者」のこと(報告書P14注釈)。全国の薬局などに約5000人いるが、あまり知られていないことが課題である。

- ・ 日本人の食事摂取基準の「推定平均必要量」などの数値は、管理栄養士などの専門家が献立を作るときや栄養指導をするときに活用するものである。必要量には個人差があり、個人が自分の栄養摂取のために用いる目的ではない（報告書 P16）。
- ・ すべての研究者の学会発表が科学的に確かというわけではない。学会の口頭発表では、科学的にどうかと思われる発表が行われることもある。論文は、専門家によるチェック（査読）が行われ、科学的におかしなものはある程度除かれるが、学会は会員になれば誰でも発表ができるので注意が必要。

【意見交換での参加者からの主なご意見】

- ・ この報告書がマスコミの方々にまだ浸透していないことを残念に思う。
- ・ 「健康食品」を購入しようとした時、ドラッグストアの人がどのくらい知識があるのかが不安である。
- ・ 多くの企業が「健康食品」の市場を拡大している中で、このようなメッセージを出したことは高く評価できる。
- ・ 明日葉の粉末が販売されているが大丈夫かとの質問があり、食品安全委員会より回答。
 （今のところ大きな安全性の問題は報告されていないが、カリウムが多く含まれているので、特に腎機能が低下している場合などはカリウムの過剰摂取になる可能性がある。（食安委）
- ・ 3月2日に食品安全委員会が開催したアクリルアミドの説明会について評価。

（以 上）